
社会政策学会 *Newsletter*

1994.12.7

No. 2

第90回大会，成城大学で開催

第90回大会は，1995年5月27～28日，成城大学で開催されます。共通論題は「技術選択と社会・企業」と決まり，報告者も確定しました（詳しくは，別記の「第3回幹事会記録」参照）。今すぐ来年度の予定表にご記入の上，ふるってご参加ください。

なお，第92回大会以降の共通論題，分科会テーマ，話を聞きたい報告者，運営方法など，大会に関するご意見・ご要望を，お寄せくださるようお願いいたします。

業績リストをご返送ください

学会年報第39集に会員の業績リストを掲載いたしますので，同封の葉書に，1994年1月1日から12月末日までに刊行された業績をご記入の上，1995年1月末日までに（厳守）ご返送ください。

研究業績は楷書で正確に，つぎの順序で記入願います。

- イ． 著書・共編著書.....書名，（共編著者名），発行所名，発行月。なお，表紙に本人の名前が明記されている場合のみ，イとして扱います。
- ロ． 論文.....論題，掲載雑誌名，発行月と巻号。または，論題，編著者名「所収書名」，発行所名，発行月
- ハ． 翻訳.....原著者名，以下は単行訳書はイ，翻訳論文はロに準ずる。
- ニ． 書評，報告書，文献解題などは，その旨付記した上，イまたはロに準じ，記入する。

分科会報告者大募集！

第90回大会の分科会報告者を大々的に募集しています。報告を希望される方は，その要旨を400字程度にまとめ，1995年1月17日までに本部宛お送りください。とくに若手会員の応募を歓迎します。

会費納入のお願い

多額の未納会費が学会財政を圧迫しています。振替用紙が同封されている方は，未納会費がありますので，すぐご送金ください。2年分以上未納の方は，振替用紙に金額を記載してあります。金額の記載がない場合は，94年度分だけですので7,000円（年報代3,000円を含む）をお納めください。

目次

ヨーロッパ労働経済学会に出席して.....	加藤 佑治（専修大学）	2
ヨーロッパ社会保障学会に参加して.....	中原 弘二（九州国際大学）	4
幹事会記録		5～9
第2回幹事会，第3回幹事会		5
第4回幹事会		6
（学会改革問題）		7～8
第5回幹事会，第6回幹事会		9
名簿記載事項の訂正追加		10

ヨーロッパ労働経済学会に出席して

加藤 佑治 (専修大学)

9月22日から25日にかけて、ポーランドのワルシャワ・スクール・オブ・エコノミクスで開かれたヨーロッパ労働経済学会に出席した。筆者はこの学会には3年ほど前から加入しているが、大会に出席するのはこれが初めてであった。本大会には、勤務校からの派遣研究とかかわらせて以前から出席を予定していたが、今回はからずも社会政策学会の代表として参加することになった。ただ、言葉の壁もあり、その任務を十分果たし得たかどうかとなると全く自信がない。以下の報告は筆者の印象記の範囲を出ないことをご了承頂きたい。

この大会で、まず印象づけられたことは報告者の数の多さである。参加者は二百数十名なのに、報告者が190余名にもものぼったのは、こののよし悪しは別に、筆者には驚きであった。大会はパネルディスカッションが1つ、他に3つの基調報告、それに多数の分科会が事実上3日間にわたっておこなわれた。大会の統一テーマは特に掲げられてはいなかったが、基調報告はすべて失業問題かこれに関連するものであり、その他の報告も失業に関するものが多数にのぼった。今この沢山の報告と討論を踏まえて、この大会の内容を要約することは不可能である。とくに筆者にとって問題なのは、言葉の壁であった。それでも前半は、この種の会合に経験豊かな一橋大学の高田一夫教授がおられたので、案外スムーズに大会にとけ込むことができた。だが、後半同教授が帰国されてからは、日本人は文字通り筆者一人になってしまい、各報告への意見交換などもままならず、楽しくも大変苦しい参加になってしまった。

本学会については、すでに国際交流小委員会の栗田健委員長から、今春の大会で報告があったので、ここでは筆者なりに大会に出てみて解ったこ

とを含め、三ふれておきたい。

この学会の正式名称は European Association of Labour Economists であるが、通常はこの略称 EALE (イアールとかイールと呼んでいる) が使われている。今春、わが社会政策学会は本学会に団体加盟したが、現在ヨーロッパ全域にわたる25か国約300人の労働経済学者によって構成されている。今私の手もとにある会員名簿で見ると、ヨーロッパ以外の研究者でこの学会に参加しているのはロンドン大学の中国人学者A.L.ラム講師を除いては日本の研究者だけである(個人としてわが学会の栗田健、高田一夫、藤田実、加藤佑治の4名)。もっとも学会役員によると、もっとアメリカ、日本、その他の国々からも大勢入ってもらい、グローバルな視野で討論をやりたいということであった。事実2年程前から役員選挙の枠をヨーロッパから世界全体に広げている。また今年の大会を見てもアメリカの学者が基調報告に加わっている。学会は89年の創立以来、イタリアのトリノを第1回とし、今年で6回目の大会を開いたことになる。毎年9月下旬に開いてきたが、来年は少し早まって9月7日~10日にフランスのリヨンで開かれる。

大会のあらましを紹介しておこう。第1日の9月22日は、役員会に続く出席者受付のあと出席者の顔合せとお互いの軽い交流のパーティーで終わった。2日目は午前9時に開会。まずワルシャワ・スクール・オブ・エコノミクス学長代理のM.ロッキー氏、EALE会長でストックホルム大学のE.ヴァデンスシュー教授、ポーランドのG.コトドゥコ副首相の挨拶に続き、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスのA.オズワルド教授が、失業をめぐる四つの難問と題して基調報告をおこなった。分科会のテーマは Newsletter No.1に紹介されて

いるので参照願いたいですが、午前中に 8分科会、午後9分科会が開かれた。第3日目の24日は基調報告としてアメリカ・MITのブランチャード教授による「東欧における長期失業」と題する報告があり、午後には後述する 5人のパネリストによるディスカッションと、前日に引き分科会が開かれた。最終日の25日には「変化の中の労働市場」と題するチェコ・カレル大学のJ.スヴェイナー教授の基調報告があった他は、テーマ別分科会で、そのあとに全体会で総括報告があり、最後に一連の閉会セレモニーがおこなわれて、全日程が終了した。

筆者としては団体加盟した日本の学会からの派遣者ということで何か挨拶を求められるのではないかと思ひ、あらかじめその用意をして行ったが特にそうした機会は与えられなかった。

第3日目の行事で注目されたのはヨーロッパ、特に東欧の失業問題をめぐってOECDの S.モール氏、チェコ・カレル大学 J.スヴェイナー教授等5人の研究者によっておこなわれたパネル・ディスカッションであった。ここでは東欧の失業がいかに深刻なものであるかが浮き彫りにされた。とくにILO経済局 G.スタンディング氏はロシアにおける失業状況の深刻化をスライドを用いて明快に指摘され参加者の注目を浴びた。

ただ筆者にとって誠に残念であったことは、ほんの短い時間ではあったが議論の中で日本の失業問題が中心となったのであるが、筆者は全くこの論議に加われなかったことである。たしか S.モール氏が、東欧におとらず西欧でも深刻な失業におそわれているというような事を言った時、フロアから、日本をどう考えるかといった質問（どうも私にはこの質問の中味は日本は失業の脅威から免れている唯一の国ではないかといっているように聞き取れたのだが）がなされた時、モール氏は「これは遠い国のことだから」（これははっきりと聞き取れた）と軽く受け流し議論が他に移ってしまった。筆者はこの会場にいるのは日本人一人のため多くの参加者の視線が注がれていることを知りながら、また「学会派遣」で来ているのだから「何とか発言しなければ」と思いながら、遂に

発言する機会を失ってしまった。

分科会では、筆者は主に失業問題のそれに参加したのであるが、そこで感じたのは二つ、一つは内容上の問題、もう一つは形式上の問題である。内容上では、報告の多くが失業期間と賃金、失業率と労働時間、失業給付と失業期間などの関係について細かな表とグラフおよび数式を用いておこなうミクロ分析的な報告が多かったことである。もちろんそういった報告ばかりではなく、例えばオーストラリア・ナショナル大学の ジュナンカー氏の報告「OECDにおける失業」はレジュメこそ数式を多く使った計量的な手法であったが、名を連ねていたもう一人の人が欠席したためか産業における労働力需要の問題にふれ、米日欧の三極をにらんだミクロ分析の上にマクロ的な視点を加えた報告で他のそれと違ったものであった。しかし筆者の聴いた多くの報告はミクロ的な手法に終始するものであった。なお、こうした状況は最近の若い研究者の一つの傾向のように思われる。というのは、年配者、たとえばこの学会の役員の方の多くの方は必ずしもミクロ的なものではなく、また前述した基調報告やパネルディスカッションの報告などもミクロ的なものでは必ずしもなかったからである。

もう一つの形式上の点について言えば分科会の報告が極めて多く、従って短時間に多くの人が報告することになり、報告がかなり細切格的になったことである。この学会は、若い研究者の業績づくりに、いささか気を使い過ぎているのではないかと、思われた。

以上、印象論に終始してしまっただが、最後に筆者の感想をもう一つ述べてこの雑駁な報告を終らせて頂きたい。それはこの学会は方法の点ではさまざま（筆者にはなじめないものも少なくなかったが）、山積するヨーロッパ労働問題に強い関心を持ち、その事実を基点として熱心な報告と討論をおこなっていたことである。また、そうした論議に日本の研究者がもっと積極的に参加し、議論を深める余地が大いにある、またそれが求められているのではないかと、ということである。

ヨーロッパ社会保障学会に参加して

中原 弘二 (九州国際大学)

1994年9月8日～10日までの3日間、ノルウェーのリレハンメルで開催された「ノルウェー社会保障100周年国際学会」に参加したので、その印象について簡単に記してみたい。

この学会は、1994年がノルウェーで最初の社会保険が制定されてから100周年となるのを記念して、「ヨーロッパのなかでの北欧型社会保障」を共通テーマに、ノルウェー保健・社会問題省とヨーロッパ社会保障学会ノルウェー支部の共催で開かれたものである。会場は、今年の2月に冬期オリンピックが行なわれたばかりのオリンピック公園のなか(ジャンプ台に近い)の立派なホテルである。公式言語は英語とフランス語で、会場ではこの二ヶ国語による同時通訳のサービスがあった。全部で10の報告とそれに対するコメントと質疑が行なわれ、それぞれ興味あるテーマであったが、ここでその内容に立ち入る余裕はない。全体として、今日ヨーロッパがかかえる共通の問題 - - 低成長経済と失業、高齢化、家族の変容 - - のなかで社会保障はどうあるべきか、とくに、これまで福祉国家の優等生とみなされてきた北欧諸国の社会保障モデルの有効性など、の問題について論議された。

ところで、最近わが社会政策学会のなかでも

「学会の改革」が話題になっているそうだが、今回、日本の学会と比べて興味深く感じた点もいくつかある。ひとつは、全部で200人近いかと思われる出席者のなかで、女性が3分の1弱(印象であるが)を占めるかと思われるほどに多かったことである。日本での女性研究者の少なさと対照的である。また、全体的にリラックスした、アットホームな雰囲気の中で報告や質疑が行なわれたことも印象的だった。議長・報告者・討論者・フロアーからの発言者が、時にはジョークを飛ばして会場が笑いにつつまれるといったこともしばしばで、みんなかなり気楽に意見をかわしているという感じである。国民性の違いといえればそれまでだが、ちょっと固い雰囲気のある日本の学会も、こういう点はもっと学んでもいいように思う。それと、当り前のことながら、報告者も討論者も発言時間をきちんと守るので、議長の最大の役割が発言時間の管理をすることというようなことはなく、本来の役割を果たしていることにも感心する。この点も多に学ぶべきであろう。

ともあれ、各国がますます共通の問題をかかえるようになっている今日、社会政策の研究においても、学会レベルでの国際的な交流をもっと活発にする必要を感じる。(1994.11.21)

新名簿を発行しました

'94～'96期の社会政策学会会員名簿を発行しました。第89回研究大会に出席された方には、会場で配布いたしました。まだ受け取っておられない方には、本ニューズレターと同時に送ります。住所、所属、電話番号などに誤記や変更がありましたら、すぐお知らせください。

幹事会記録

(第2回～第5回)

第2回幹事会

【日時】 1994年7月14日(木曜)午後6時～8時25分

【場所】 明治大学 研究棟4階第3会議室

【出席者】 伊藤セツ, 大沢真理, 加藤佑治, 工藤恒夫, 栗田健, 佐口和郎, 高田一夫, 戸塚秀夫, 野村正實, 二村一夫, 早川征一郎, 牧野富夫。 オブザーバー: 木村周市朗(大会会場校)。

【協議事項】

1. 第90回大会共通論題に関する件

コ-デネ-タ-の野村正實・大沢真理両幹事より原案が提出され、審議した結果、さらに検討することになった。

2. 入会に関する件

つぎの3氏の入会申込みを承認した。

衣笠 巧(中京短期大学助教授) 推薦者 森隆男, 川島美保

村上 良三(産業能率大学経営情報学部教授) 推薦者 嶺 学, 五十嵐仁

泉 輝孝(奈良大学社会学部教授) 推薦者 嶺 学, 五十嵐仁

3. その他

(1) 学会改革問題について

当日、二村代表幹事が執筆した「社会政策学会活性化のための改革方策に関する論点メモ」が配布され、本件については時間をかけて検討することとなった。また、論点整理のために、各幹事が意見書を出して欲しいとの代表幹事の要望を了承した。

(2) 日本学術会議会員推薦委員会への意見書について

加藤佑治幹事より、94年5月28日付で、意見書を提出した旨、報告があった。

(3) 国際学会に関する件

栗田幹事より European Association of Labour Economists(EALE)へ加入申し込みを行った旨、報告があった。また、同学会のワルシャワ大会へ出席を予定されている加藤佑治幹事を、本学会の代表とすることを決定した。

第3回幹事会

【日時】 1994年9月22日(木曜)午後6時～8時25分

【場所】 法政大学92年館(大学院)4階共同会議室

【出席者】 伊藤セツ, 大沢真理, 工藤恒夫, 栗田健, 佐口和郎, 高橋祐吉, 戸塚秀夫, 野村正實, 二村一夫, 早川征一郎, 牧野富夫。 オブザーバー: 木村周市朗, 白井英之(成城大学)。

【協議事項】

1. 第90回大会の共通論題に関する件

コ-ディネ-タ-の野村正實・大沢真理両幹事から、第2回幹事会の論議と、その後、幹事から個別に出された意見を考慮した結果として、共通論題のタイトルを《技術・企業・社会》とし、つぎのようなテーマと報告者についての新たな案が提出され、審議の結果、原案通り承認された。

「技術選択と労働組織」 清水 耕一(岡山大学経済学部)

「技術とジェンダー」 大沢 真理(東京大学社会科学研究所)

「日本の技術選択と社会編成」 久野 国夫(九州大学経済学部)

「技術と企業間分業」 清 一郎(関東学院大学)

2. 第90回大会テーマ別分科会に関する件

a) 社会保障・社会福祉関係の分科会については、工藤幹事から提案があり、審議の結果、さらに検討することになった。

b) もう1つのテーマ別分科会は「雇用形態の多様化」に関するものとし、具体案の作成を佐口和郎幹事に委嘱した。

3. 入会申し込みに関する件

つぎの3人の方の入会を承認した（敬称略）。

色川 卓男（家計経済研究所研究員）	推薦者 岩田 正美，馬場 康彦
箕岡 三穂（立正大学経済学部講師）	推薦者 佐藤 進，筆宝 康之
立川 潔（成城大学経済学部助教授）	推薦者 上野 格，木村周市朗

4. 退会者に関する件

疋田昌巳会員（日本労働研究機構）が94年2月6日に逝去されたことが報告された。また小林節夫会員から、本年度をもって退会したい旨通知があったことが報告され、これを確認した。

5. その他

a) 学術会議経済政策研究連絡委員会の次期候補の推薦について
第1回幹事会で、研連委員の候補者として荒又重雄，加藤佑治の両幹事を選出したが，8月に学術会議から届いた要請では，社会政策学会からの候補推薦枠は1名に減員されていた。やむなく加藤氏1人だけを推薦した。

b) 学会改革問題の進め方について

単に役員選出問題だけでなく，大会や分科会など学会の活動全般について，広く再検討すべきであることで一致した。また，こうした問題は十分時間をかけておこなうべきであるとの意見があり，拙速は避けることを確認した。また，改革についての実質的な討議は，地方在住の幹事が出席しやすい大会，研究大会の際に開く幹事会でおこなうことを確認した。

第4回幹事会

【日 時】 1994年 11月 4日（金曜）午後2時～6時30分

【場 所】 佛教大学鷹陵館第1会議室

【出席者】 相沢与一，荒又重雄，石田光男，伊藤セツ，菊池光造，工藤恒夫，栗田健，佐口和郎，清山卓郎，高橋祐吉，高田一夫，竹中恵美子，戸塚秀夫，西村韶通，二村一夫，野村正實，浜岡政好，早川征一郎，牧野富夫。 オブザーバー：木村周市朗，臼井英之（成城大学）。

【協議事項】

1. 第90回大会テーマ別分科会の件

社会保障・社会福祉分野に関するテーマ別分科会について，工藤恒夫幹事から，前回の幹事会の討議をうけてつぎのような提案があり，異議なく了承された。

テ・マ 国民生活と社会保障政策の課題
里見 賢治「国民生活と福祉政策の論点」
唐鎌 直義「高齢者の生活問題と年金制度」

労使関係・労働問題のテーマ別分科会について，佐口和郎幹事から，労働市場の規制緩和問題（仮題）としたいとの提案があり，了承された。

2. 入退会に関する件

次の3人の方の入会を承認した。

大潮まゆみ（滋賀文化短期大学専任講師）	推薦者 住谷 馨，小倉 襄二
兵藤 敦史（九州大学大学院博士後期課程）	” 下山房雄，石井まこと
杉本 龍紀（北海道大学研究生）	” 荒又重雄，美馬 孝人

山本開作（大阪市立大学），堀越稔（労働調査研究所）両会員の逝去が報告された。

3．学会改革に関する件

二村代表幹事が、各幹事宛にあらかじめ送付してあった「学会改革に関する論点整理」について説明し、検討課題の優先順位など 審議の進め方 について提案した。検討の結果、 予算にかかわる問題、 役員選出など会則の改正を必要とする問題を優先的に検討することなどが確認され、「論点整理」の順序にしたがって審議し、以下のように決定した。

《予算にかかわる問題》

a) 支出増となるもの

改革にともない支出増が予想される 9 項目について逐次検討し、以下のように決定した。

学会事務センタ - への事務委託について

本件は、会員増にともない膨大化した本部事務を軽減するだけでなく、次のようなメリットがある。
a)これまで代表幹事の選任は、本部事務を担当できる条件があるか否かを第一に考慮せざるをえず、したがって東京近辺の一部大学関係者に限定されてきた。本部の雑務負担が軽減されれば、代表幹事はより広い範囲から適任者を選ぶことができる。b)事務所を 2 年ごとに移転することにもなう不便を解消できる。

しかし、反面、会費の領収書は発行しないなど、きめ細かい会員へのサービスは期待できない。また、経費も会員 1 人あたり 1,000 円はかかると予想される。本件については、今すぐ委託の必要はなくその用意も整っていないので、今回は見送ることとした。

『社会政策叢書』の購入の義務化

はじめに、「論点整理」において、本件に要する費用が会員 1 人あたり 3,000 円となっている根拠について質問があった。これに対し代表幹事から、これは年報代と同額にしたもので、また全員に購入を義務づければ 3,000 円で刊行は可能であると考えたからであるとの答があり、了承された。検討の結果、この実施には大幅な会費の値上げが必至である。また、実施しないと決めれば、すでに厳しい状況にある『社会政策叢書』の継続や、秋の研究大会の存続さえ問題となりうる。こうした問題をいま直ちに幹事会だけで決定することは出来ない。そこで、会員の意向をアンケートによって確かめ、その結果をふまえて、来年春の大会の前日に開く幹事会で改めて検討する。したがって、実施するとしても再来年度以降となる。以上の点を確認した。

季刊の機関誌発行

本件については、提案者も来年度から刊行する準備はできていないことを認め、今回は見送ることになった。

大会経費の完全学会負担

本件については、来年度から実行することとした。ただ、各大学の学会補助費の金額にはかなりの違いがあり、大会開催費を増額するやり方ではなく、予備費を増額し、開催校が赤字を出した場合に、そこから補填する形で処理することとなった。関連して、現在 渡しきり になっている大会・研究大会、部会・分科会の補助金についても、その支出内容の報告を求めることが確認された。

大会報告を依頼した非会員への旅費、宿泊費の支払い

本件については、来年度から実行することを決定した。ただし、旅費、宿泊費にとどめ、謝礼は支払わない。

大会報告者の準備会のための旅費・会合費などの支払い

今回は、見送ることになった。

幹事会への出席に多額の旅費を要する幹事への補助

これも、見送ることにした。

郵送による役員選挙にともなう費用

本件は単なる財政問題ではないので、会則改正に関する問題点を審議した上で決定することとした。

Newsletter の発行費用

現在は、それほど多額の予算を計上しなくとも実施できる見通しである、との代表幹事の説明が了承

された。

b) 支出減あるいは収入増となるもの

入札による印刷費の節減
異議なく、了承された。

報告要旨の簡素化 & or 欠席者への発送中止

大会の報告要旨を欠席者に発送することは、来年度からやめることが決定された。ただし、部数を若干多めに印刷し、希望者には、本部の事務負担を大きく増やさない方向で（出席者を通じ、あるいは秋の大会で）配布することにした。

大会参加費の徴収

会員に対する大会参加費の徴収は行わないことを決定した。非会員については、従来から徴収しており、今後も継続することが確認された。

c) 在外留学者、在外会員の会費減免問題

在外留学者への会費減免措置は、本部事務が煩雑となること、また留学者の場合は住所不明、会費滞納などのため、一般会員よりむしろコストがかかることを考慮し、実施しないこととした。

《会則の改正を要する問題》

a) 役員選出に関する問題

多選の制限

幹事は、連続3期を限度とする。ただし1期休めば、改めて連続3期選出されるうることを決定した。また、その起算は今期からとすること、すなわち現幹事は、あと2期のみとすることになった。

役員定年制

役員定年制は設けないが、65歳以上の幹事の比率は、全会員中の65歳以上会員の構成比以内とすることとした。具体的には、65歳以上候補については、得票順で会員中の65歳会員比率に達するまで幹事とし、枠を越えた65歳以上候補は、65歳未満候補より得票数が多くても、幹事とはしない。

b) 選挙方法に関する問題

郵便投票

郵便投票制は実施せず、従来通り総会において選出することを、多数で決定した。ただし、あらかじめ被選挙人名簿を全会員に送付し、被選挙人の氏名を周知することとした。

当選者の辞退権

幹事に当選した会員が就任を辞退する権利については、会則に規定しない点で一致した。ただし、病気や留学など、個人的な事情がある場合は、個々の事例ごとに幹事会で検討し、承認された場合は次点者から繰り上げることを決定した。

《 幹事会申合せ の改正で済む問題》

a) 役員選挙に関する問題

連記人数の制限

これまでの10名連記制を改め、次回から7名連記とすることにした。

分野別代表など

選挙による幹事は、従来どおり地域ブロックごとに選出する。しかし、推薦幹事については地域別の枠をはずし、分野・性・年齢・地域などさまざまな要素を考慮して、幹事会の構成が偏ったものとならないようにすることで合意した。

第5回幹事会

【日 時】 1994年 11月 5日（土曜）正午～午後 1時

【場 所】 佛教大学鷹陵館第1会議室

【出席者】 相沢与一，荒又重雄，石田光男，伊藤セツ，菊池光造，工藤恒夫，熊沢誠，栗田健，佐口和郎，清山卓郎，高田一夫，竹中恵美子，戸塚秀夫，西村裕通，二村一夫，野村正實，浜岡政好，早川征一郎，牧野富夫，美馬孝人。〔高橋祐吉幹事は年報編集委員会に出席〕
オブザーバー：木村周市朗・臼井英之（成城大学）。

【協議事項】

1. 改革問題

前日の改革問題についての報告を受けての質疑で、「大会，研究大会の開催で余剰金が出た場合，学会に返却すべきである」との意見について討議した。その結果，開催校にはそれぞれ事情がありうるので，返却を義務とはせず，可能な場合は本部財政に戻してもらうことで，合意をみた。

また，前日の改革討議において洩れていた，「役員の大選の制限」の対象となる 役員 について検討し，これには幹事だけでなく，監事も含まれることを確認した。

2. 入会申込に関する件

つぎの2人の方の入会を承認した。

池田 敬正（佛教大学社会学部教授）	推薦者 浜岡政好，岡崎祐司
木下 秀雄（大阪市立大学法学部助教授）	〃 青木郁夫，武田 宏

3. その他

野村正實幹事より，第90回大会の共通論題のタイトルを「技術選択と社会・企業」と改めたいとの提案があり，異議なく了承された。

第6回幹事会

【日 時】 1994年 11月 6日（日曜）正午～午後 1時

【場 所】 佛教大学1号館5階大会議室

【出席者】 相沢与一，荒又重雄，石田光男，伊藤セツ，菊池光造，工藤恒夫，熊沢誠，栗田健，佐口和郎，清山卓郎，高田一夫，高橋祐吉，竹中恵美子，西村裕通，二村一夫，浜岡政好，早川征一郎，牧野富夫，美馬孝人。 オブザーバー：木村周市朗・臼井英之（成城大学）。

【協議事項】

1. 第92回大会の共通論題とコ - デネ - タ - について

共通論題のアンケート結果について報告を受け，共通論題とともに，分科会の在り方などについても議論した。しかし結論はせず，継続討議と決定した。

2. 入会に関する件

つぎの2人の方の入会を承認した。

河野 すみ子（金沢大学大学院）	推薦者 横山 寿一，伍賀 一道
川瀬 善 美（白鷗女子短期大学助教授）	〃 森田 明美，山下袈裟男

3. 自然退会候補者の取扱いについて

4年分以上会費を滞納している会員中，住所不明のため連絡がとれずにいる鄭夢準会員，およびご本人が自然退会を希望されている小池和男会員の自然退会を決定した。他の滞納者については，さらに個別に働きかけ，会費の納入を促すこととした。

また，研究大会への出欠連絡の葉書で逝去されたことが判明した小野恒雄会員と，退会希望を通知してこられた三吉明会員，芳賀守会員，一條和生会員の退会を確認した。

以 上

名簿記載事項の訂正追加

以下は、新名簿の発行後に判明した事項です。ご訂正ください。

部会・分科会の担当者交代

中国・四国部会	下関市立大学	山本 興治	吉備国際大学	宮田 千蔵
東北部会	福島大学	相沢 与一	東北学院大学	斉藤 義博

住所・所属変更など

岡田藤太郎	龍谷大学 文学部	大阪地域福祉サービス研究所
木下 順	〒227 横浜市緑区	〒224 横浜市都筑区
倉田 良樹	福岡大学 商学部	一橋大学 社会学部
重田 博正	略	
清水 弥生	略	
高橋 祐吉	〒226 横浜市緑区	〒224 横浜市都筑区
永瀬 順弘	〒225 横浜市緑区	〒224 横浜市都筑区
吉尾 清	長崎県立国際経済大学	長崎県立大学 経済学部

新入会員（名簿発行後）

中里 操夫（清和女子大学）
丹下 晴喜（立命館大学大学院）
大潮 まゆみ（滋賀文化短期大学）
兵頭 敦史（九州大学大学院）
池田 敬正（佛教大学社会学部）
河野 すみ子（金沢大学大学院）
木下 秀雄（大阪市立大学法学部）
杉本 龍紀（北海道大学経済学部）
川瀬 善美（白鷗女子短期大学）

【お詫びと訂正】

Newsletter no. 1 に次のような誤りがありました。お詫びして訂正します。
2 頁 「88回大会総会報告」記事中で、兵藤つとむ会員の名前を誤記。
3 頁 推薦幹事の選任に関する記事で、浜岡政好幹事の名前を正好と誤記。

【次号予告】

次号は、学会改革・会費値上げ問題に関するアンケートと併せて、明年3月ごろ発行の予定です。

発行
社会政策学会
代表幹事 二 村 一 夫
〒194-02 東京都町田市相原町4342
法政大学大原社会問題研究所内
電話 0427-83-2307 FAX 0427-83-2311
